

6. 関数

□ 概要

- Pythonでの関数の扱い方について学びます。

□ 学習内容

- 6.1 関数の作成
- 6.2 可変長引数
- 6.3 デコレータ
- 6.4 演習問題（別紙）



6.1 関数の作成

□関数とは

- プログラムの複数の処理を一つにまとめたもののこと。
- 関数を使用すると、プログラムを機能ごとに分割し、全体の動作を明確にすることができます。

6.1 関数の作成

□ 関数の定義の仕方

```
def 関数名(引数1, 引数2):  
    処理  
  
    return 戻り値
```

□ 引数

- 関数の処理の中で使用できるように渡す値のこと。
省略可能。

□ 戻り値

- 関数を実行した結果として返す値のこと。
省略可能。



6.2 可変長引数

□ 可変長引数とは

- 任意の数の引数のこと。
 - 関数での可変長引数の指定の仕方は、以下の二種類があります。
1. 「*args」を使用する。
 2. 「**kwargs」を使用する。



6.3 デコレータ

- 関数を修飾して新たな関数を作成することを デコレータ と言います。
- 既存の変数を変更することなく、処理の追加や変更を行うことができます。
- 処理の追加や変更を行いたい関数の前に、「@デコレータ名」をつけることによって使用できます。

6.4 演習問題（別紙）

□ 演習問題を解いてみましょう。

